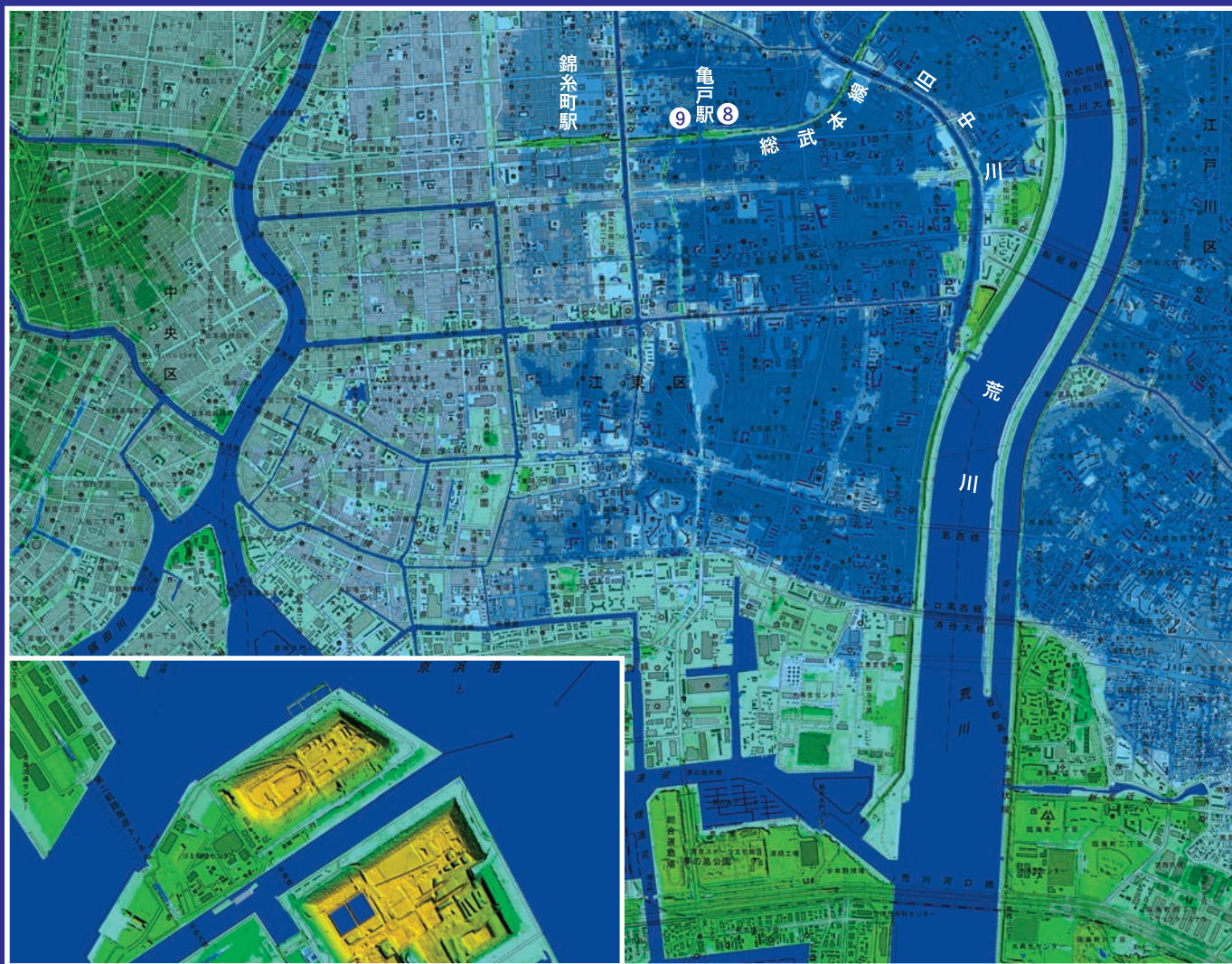


5. 東京のゼロメートル地帯

1:50,000に縮小



水面より低い地面

図の中央北部の細長い緑色部分は錦糸町駅で、そこから旧中川を越えて北東に緑色の線が延びていますが、これは総武本線の築堤です。築堤には避溢橋^{ひいつ}⑧と呼ぶ橋で切られています。これは洪水時に、築堤の上流部に溜まる水を逃がすものです。一帯の標高は0m以下で、亀戸駅前には、地面よりも荒川の水面の方が高いことが一見してわかる、亀が水面に浮かぶ姿をモチーフにしたモニュメント⑨があります。

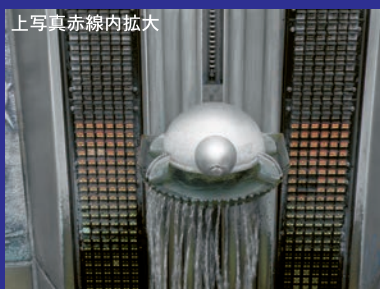
南部の埋立地は緑色、4m以上の標高です。台風の際は気圧が低いので海面が吸い上げられたり、強い風で海面が吹き寄せられたりします。そうした高潮被害を防ぐために、伊勢湾台風（1959年）以後の埋立地は、このような高さで計画されています。分図は中央防波堤外側のゴミの処理場で、標高は本郷台地に匹敵する30~40mに及びます。



⑧ 亀戸駅付近の避溢橋



上写真赤線内拡大



⑨ 荒川水位表示モニュメント